

### 23. $^{57}\text{Co}$ —ブレオマイシン—シンチグラムによる肝癌並びに膀胱癌の診断

大阪府立成人病センター アイソトープ科

長谷川義尚 中野 俊一

大阪微研病院 内科

石上 重行

最近  $^{97}\text{Ga}$  (クエン酸ガリウム) 及び  $^{99\text{m}}\text{Tc}$ —ブレオマイシンによる肝悪性腫瘍の陽性描画が試みられているが  $^{57}\text{Co}$ —ブレオマイシン (以下  $^{57}\text{Co}$ —BLM と略す) をこの目的に用いたものは少ない。今回我々は  $^{57}\text{Co}$ —BLM を用いて肝及び膀胱の悪性腫瘍シンチグラム診断を試みたので報告する。

〔対象並びに方法〕症例は肝癌11例及び膀胱癌4例合計15例である。方法は  $^{57}\text{Co}$ —BLM500 $\mu\text{Ci}$  静注24時間後、東芝製シンチカメラ 202A を用い、正面、右側面及び背面の三方向より撮影を行った。再び正面像撮影後  $^{198}\text{Au}$ —コロイド或いは  $^{75}\text{Se}$ —メチオニンを静注し、上記と同一位置において三方向像を撮影し、 $^{57}\text{Co}$ —BLM によるシンチグラムと  $^{198}\text{Au}$ —コロイド或いは  $^{75}\text{Se}$ —メチオニンによるそれと比較した。判定は集積の程度により陽性、疑陽性及び陰性とした。

〔成績〕肝癌11例中陽性7例、疑陽性3例及び陰性1例であった。これを組織型別にみると肝細胞癌8例中5例陽性、胆管上皮細胞癌2例いずれも陽性、転移性肝癌(原発巣肺)の1例は陰性である。このうち3例は  $^{198}\text{Au}$ —コロイド法によっては明瞭な欠損像を認めないか或いは判定が困難であったが  $^{57}\text{Co}$ —BLM 法により確診した例である。なお、腎が造影される事がシンチグラム判読の上で妨げとなる場合もあるが、我々が行っている多方向の撮影により容易に判読出来る例が多かった。つぎに膀胱癌については4例中2例陽性、疑陽性1例、陰性1例の成績を得た。未だ症例は少いが膀胱癌例にも陽性像を得た事は興味がある点である。

以上、 $^{57}\text{Co}$ —BLM によるシンチグラムは肝及び膀胱の悪性腫瘍の診断に用い得るものと考える。